

小・中・高 合同

平成28年度

# 教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究方法	3
V	研究内容	5
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	24

<b>研究主題</b>	よりよい生活を実現するために、他者との協働的な学習を通して自らの考えを深め、主体的に課題を解決していく力を育む学習指導と評価の在り方
-------------	--

## I 研究主題の設定理由

現代の社会は、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加え、超少子高齢化や、グローバル化・情報化の進展などが急速に進んでいる。そして、社会構造や雇用環境の変化に伴い、変化の激しい予測困難な時代の到来が予想されている。そのような時代においては、いかなる変化にも対応しうる「社会にどのように向き合っていくのかを主体的に考え、判断する力」や、「多様な人々と協働し、課題を解決していくことができる力」が求められる。次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめにおいても、これからの時代を生きる子供たちが身に付けるべき学力の3要素として、十分な知識・技能、答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を挙げている。

このような変化の激しい社会においては、児童・生徒が、家庭や地域の一員として、自立した生活者を目指すこと（小）、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望していくこと（中）、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造すること（高）を目標とする家庭科の果たす役割は重要である。児童・生徒一人一人が、生涯にわたって自立した生活を営み、共に生きる生活を創造するために生活の課題を見いだし、最適な解決策を追究する学習過程を通じて、生きる力を身に付けることは、極めて重要である。

本年度の教育研究員全体のテーマは「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」であるが、本研究部会は、今年度、小学校、中学校、高等学校の三つの校種が共同で研究を行い、それぞれの校種における家庭科の指導内容や成果と課題を共有し、検討していくこととした。

新しい時代に求められる家庭科における資質・能力については、各校種の系統性を考慮して次のようにまとめた。

「知識・技能」	自立した生活を送るための基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける力
「思考力・判断力・表現力等」	生活の中から問題を発見し、必要な情報を活用して自分の生活と結び付け課題を解決する力
「学びに向かう力、人間性等」	家族・地域社会の一員として家庭科で習得した知識や技能を通して、生活をよりよくしようとする実践的な態度

また、校種ごとのこれまでの授業の分析、児童・生徒の主な実態と課題として次の4点が挙げられた。

- (1) 校種にかかわらず、児童・生徒は調理実習など特定の学習活動に対する興味・関心は高く、

意欲的な姿勢を見せる傾向にある。

- (2) 共働き世帯や塾通いなどの生活スタイルの変化、コンビニエンスストアや家電製品の普及などを背景に、家庭での調理や被服管理など、生活経験が減少している。
- (3) 家庭科の授業で学んだことと、家庭生活における経験とのつながりが減少し、家庭科の授業において学習内容を発展させることが難しく、学びを十分に深められない。
- (4) 習得した知識や技能を活用する機会が少ないことで、生活の質を向上させる方法についてのイメージがもちにくくなり、学びの定着を図ることが難しい現状が生じている。

これらの社会的背景や家庭科の果たす役割、児童・生徒の実態を踏まえて、小・中・高等学校家庭部会では、「実生活で活用しやすい実践的・体験的活動を繰り返すこと」や「生活の中から課題を設定し、他者との協働的な学びを通して課題を解決すること」を取り入れた授業を行うことにより、よりよい生活の実現に向けて主体的に課題を解決していく力を育むことができると考えた。また、協働的な学習における評価について、小・中・高等学校のそれぞれの発達段階で検証授業を行い、その在り方についても検討していくこととした。

## Ⅱ 研究の視点

本年度の小・中・高等学校部会のテーマは「新しい時代に求められる資質・能力を育むための、主体的・協働的な学習の指導と評価について」である。本研究では以下の2つの視点から、研究および検証授業を行うこととした。

### 1 「つながり」「繰り返し」を意識した授業展開により基礎・基本の定着を図る視点

小・中・高等学校それぞれの部員の所属校における児童・生徒の実態として、例えば調理実習や被服実習、保育体験活動等、特定の学習活動に対する興味・関心が高いということが特筆できる。また、様々な社会状況の変化や家庭環境の多様化に伴い、自分で食事の準備をする、ズボンの裾のほつれを直す、ボタンを付け替えるなどの家庭での実践の機会があまりなく学びが発展しにくいことが明らかになった。さらに、授業で学習した知識や技術を活用する機会がほとんどない上、教員側も繰り返し学習を促す機会が少ないという実態が分かった。

そこで、基礎・基本の定着を図るために生徒の実態を把握する調査等を実施し、日々の学習や家庭での実践を通して家庭科の授業と生活における実践、各単元のつながりや、小・中・高等学校のつながりを意識した学習活動を繰り返し行うこととした。

### 2 課題を解決する力を育み、よりよい生活を実現しようとする態度を養う視点

家庭科の授業を通し、「よりよい生活」を実現しようとする態度を養うことは各校種共通の目標である。その実現のために、授業中に生活の課題に気づき、課題解決に向けて考える力を育成できるよう、「計画、実践、評価、改善」という一連の過程を授業に取り入れることとした。

また、「計画、実践、評価、改善」を授業の中で効果的に行うため、対話的・協働的な学習を段階的に行うこととした。

他者との対話的・協働的な学習を通して、生活の中の課題に気づき、多角的に自らの問題を捉え、課題を設定することを第一段階とし、その後、自分の考えを他者に伝え、他者の考えを知ることを第二段階とした。それを踏まえ更に自分の考えを深めるという生活を展望した視点をもつことを第三段階として、課題を解決する力を育てることとした。

### Ⅲ 研究の仮説

家庭科における思考力・判断力・表現力を育むためには、児童・生徒が主体的に生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決していく学習が必要である。

主体的に学習に取り組むためには、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ることが必要不可欠である。そのためには児童・生徒の発達段階を踏まえ、小・中・高等学校の各学習内容の接続が分かるように、学びのつながりを意識した授業の導入及び展開を工夫して行くことが大切であり、学年や校種を超えて学習を繰り返していく必要があると考えた。授業の題材・領域や、家庭での実践、小学校から中学校、中学校から高等学校への学びのつながりを意識した授業の導入及び展開を工夫するために、児童・生徒にアンケート調査を行い、児童・生徒の実態を分析し、分析・把握した内容に応じた導入及び展開としていくことが重要である。

また、授業展開の工夫として、グループ学習の場面を設定し、他者との対話的・協働的な学習を通して、一人一人の思考を広げるとともに、他の児童・生徒と相互に学ぶことで、他者の経験から学び、実体験の不足を補い自分自身の生活を展望した課題解決へと導くことができると考えた。その際、自分自身の考えの変容が分かるようなワークシートを活用し、初めに考えたことが他者との対話的・協働的な学習を通してどのように広がり、深まるのか、質的にも量的にも分かるものとする。評価については、児童・生徒のグループ討議等、協働的な学習時に適切な評価ができるよう、教員が生徒の行動を観察し、どのような評価方法が適切か検討する。

さらに、家庭学習や実生活の中でも課題を見付け、「計画、実践、評価、改善」という一連の過程を繰り返すことで、多角的な視点で将来を展望し課題解決していく力を育てることができると考えた。

以上のことを踏まえ、本研究では以下のように仮説を設定した。

- 1 学びのつながりを意識した授業の導入及び展開を工夫し、学びを繰り返すことで、基礎・基本の定着を図ることができる。
- 2 対話的な学びから自らの問題を多角的に捉え目標を設定し、「計画・実践、評価・改善」という一連の学習過程を通して、これからの生活を展望して課題を解決する力を育てることができる。

### Ⅳ 研究の方法

研究主題に基づき研究を進めるに当たり、他者との対話的・協働的な学習を通し、自らの考えを深めたり、主体的に課題を解決していく力を育んだりするために、調査、グループ学習、ワークシートを、授業に効果的に取り入れることにした。検証授業は小・中・高等学校のつながりを意識しやすい食物分野と被服分野で行った。

#### 1 調査（アンケート）の実施

単元の事前・事後にアンケートを実施し、事前アンケートの内容から、家庭での実践状況を読み取るとともに、小・中・高等学校の学びのつながりを意識しながら、基礎・基本の定着を確認する。定着が不十分な事項については、授業の導入・展開を工夫し、繰り返しの学習指導により定着を図る。事前アンケートの項目は、次の4つである。① 家庭での実践・実態、② 知

っているか、知らないか、③ できるか、できないか、④これからやってみたいこと。事前アンケートと事後アンケートでは、できる限り同じ質問をし、児童・生徒の変容を読み取った。

【中学校「家庭科アンケート」】

☆家庭科アンケート☆	
( )月( )日	
( )年( )組( )番 氏名( )	
■自分の普段の生活を思い浮かべながら答えてください。	
<b>学習の前</b> 1. 自分の家事について、どんなことを考えていますか、実践していることは？	<b>学習の後</b> 1. 自分の家事について、どんなことを考えてっていますか、実践していることは？
2. 献立を立てることについて、どんなことを知っていますか。	2. 献立を立てることについて、どんなことを知っていますか。
3. 1日分の献立を立てることが出来ますか？ できる できない 4 3 2 1	3. 1日分の献立を立てることが出来ますか？ できる できない 4 3 2 1
4. 献立作りについて、興味を持っていること、やっぴたいことは？	4. 献立作りについて、興味を持っていること、やっぴたいことは？

## 2 他者との対話的・協働的な学習

他者との対話的・協働的な学習を通して、自分だけでは気が付かなかった問題や課題などを発見したり、他者と意見を共有し、他者の考えを自分の考えに加えたりすることは、学びを広げ、学びを深めることに役立ち、これからの生活を展望することにつながる。グループ学習の進め方は、次のとおりである。①一班4～6人程度のグループで、ワークシートに沿って、あらかじめ設定した課題について自分の考えを記入し発表する。②グループ内で他者の考えを聞き、自分の考えについて再考し、ワークシートに記入し、発表する。③今後の展望をワークシートに記入し発表する。その際、教員からも適宜アドバイスする。

## 3 ワークシートの活用

課題解決に向けた「計画、実践、評価、改善」という一連の過程を授業に取り入れ、他者との対話的・協働的な学習の取組に合わせてワークシートを作成し、「ホップ・ステップ・ジャンプシート」とした。この「ホップ・ステップ・ジャンプシート」の記録により、児童・生徒の変容や学びの深まりを確認するとともに、ワークシートを段階ごとに記入することで、これからの生活への展望を自分で導き出せるようにする。

「ホップ・ステップ・ジャンプシート」の内容は次のとおりである。

第一段階：自分の考えを明確にする（計画、実践＝ホップ）

第二段階：他者の意見や発表から自分の考えを広げる（実践、評価＝ステップ）

第三段階：第二段階を踏まえて自分の考えを深めてより良くしようとする（ジャンプ＝改善）

## 4 評価

対話的・協働的な学習を行う際に、生徒の「自分の意見を積極的に話すこと」「他者の意見、発言を促すこと」「他者の話を聞き、自分の考えと比較すること」ができるかを授業者が適切に評価できるか、検証授業時に授業者以外の部員も同時に評価した。

また、児童・生徒が記入したホップ・ステップ・ジャンプシートでの変容を教師が読み取り、授業で学んだことを踏まえて、実生活における課題を発見し、改善していこうとする主体的な姿勢を育むことができるようあらかじめ以下のような評価基準を設定した。

- 評価A・・・「十分満足できる」状況と判断できるもの
  - ・ワークシートに必要な事項を全て記入している。グループ内の意見を踏まえ、自分の考えや今後の展望を具体的に記入している
- 評価B・・・「おおむね満足できる」状況と判断できるもの
  - ・ワークシートに必要な事項を全て記入している。今後の展望が具体的でない
- 評価C・・・「努力を要する」と判断できるもの
  - ・ワークシートに必要な事項を全て記入しているが、質問に正対していないなど内容が不十分なもの
- 評価D・・・「おおいに努力を要する」と判断できるもの
  - ・ワークシートの記入欄に空欄があるもの



## V 研究の内容

全体テーマ **思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善**

小・中・高等学校部会テーマ **新しい時代に求められる資質・能力を育むための、主体的・協働的な学習の指導と評価について**

### 各教科等における「新しい時代に求められる資質・能力」とは

【知識・技能】 自立した生活を送るための基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける力

【思考力・判断力・表現力等】 生活の中から問題を発見し、必要な情報を活用して自分の生活と結び付け課題を解決する力

【学びに向かう力、人間性等】 家族・地域社会の一員として家庭科で習得した知識や技能を通して、生活をよりよくしようとする実践的な態度

### 現状から見えてきた課題

【現状】 ・調理実習など特定の学習活動に対する興味・関心が高い

・家庭での生活経験が減少し、家庭や地域の教育力が低下しているため、学習内容を発展させ、学びを深めることが難しい。

・よりよい生活を実現するために、家庭科で習得した知識や技能を活用する機会が少ない。

・主体的・協働的な学習に対応した適切な評価の在り方が明確ではない。

【課題】 ・生活に根ざした実践的・体験的活動を繰り返し授業に取り入れ学びの定着を図る必要がある。

・生活の中から課題を設定し、その課題を解決する力を育むとともに、よりよい生活を実現しようとする態度を養う必要がある。

・対話的・協働的な学習に対応した適切な評価の在り方について検討する必要がある。

### 小・中・高等学校家庭部会主題

**よりよい生活を実現するために、他者との協働的な学習を通して自らの考えを深め、主体的に課題を解決していく力を育む学習指導と評価の在り方**

### 仮 説

・学びのつながりを意識した授業の導入及び展開を工夫し、学びを繰り返すことで、基礎・基本の定着を図ることができる。

・対話的・協働的な学びから日常生活における自らの問題を多角的に捉え課題を設定し、授業や日常生活における「計画、実践、評価、改善」という一連の過程を通して、これからの生活を展望して課題を解決する力を育てることができる。

### 具体的方策

・基礎・基本の定着を図るために児童・生徒の実態を把握する調査等を実施し、各単元における授業、小・中・高等学校のつながりを意識した学習指導、家庭での実践を繰り返し行う。

・自らの課題を多角的に捉え、目標を設定するために、他者との対話的・協働的な学習としてグループ学習を行う。

・これからの生活を展望して課題を解決する力を育てるためにワークシートを活用し自分の考えをまとめ、発表する。また、他者と関わることで考えを広げ、深める学習をする。ワークシートは「第一段階で自分の考えを明確にする（ホップ＝計画・実践）、第二段階で他者の発表から自分の考えを広げる（ステップ＝実践・評価）、第三段階は第二段階を踏まえて自分の考えを深める（ジャンプ＝改善）」という形式（ホップ・ステップ・ジャンプシート）とする。

・対話的・協働的な活動及び、ホップ・ステップ・ジャンプシートに対してあらかじめ評価基準を作成し、評価を行う。

### 検証・評価

・単元の事前・事後にアンケートを実施し、記述内容から児童・生徒の変容を読み取る。

・対話的・協働的な学習やホップ・ステップ・ジャンプシートの記録から、児童・生徒の学びの深まりを確認し、適切な評価ができるか確認する。

## 実践事例 1 (小学校)

教科名	家庭	科目名	家庭	学年	小学校 第5学年
-----	----	-----	----	----	-------------

### (1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元(題材)名: 食べて元気に

イ 教科書: 「わたしたちの家庭科」

### (2) 単元(題材)の目標

- ・なぜ食べるのかを考え、日常の食事や使われている食品に関心をもち、栄養を考えた食事を大切にしようとする。
- ・五大栄養素を知り、食品に含まれる栄養素の体内での主な働きが分かる。
- ・五大栄養素の体内での主な働きによる食品のグループ分けが分かる。
- ・基本的な調理技術を身に付け、御飯と味噌汁の調理をすることができる。

### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割や大切さが分かり、栄養を考えた食事のとり方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。</li> <li>・日常よく使用されている食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養を考えた食事について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。</li> <li>・日常よく使用されている食品を用いた調理について考えたり、自分なりに工夫したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。</li> <li>・ご飯とみそ汁の調理に関心をもち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元(題材)の指導と評価の計画(11時間扱い)

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法など)
			知	思	主	
第1次	1	・どのようなものを食べているのか食品を考え、いろいろな方法で食品の分類をする。			●	・食事に関心をもち、栄養を考えた食事をとることの大切さに気付いている。(行動の観察、記述の分析<ワークシート>)
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品には、生命を保ち、活動し成長するために必要な栄養素が含まれていることを知る。</li> <li>・食品は栄養素によって主な働きが3つのグループに分けられることを知る。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の栄養的な特徴や組み合わせに関心をもっている。(行動の観察、記述の分析&lt;ワークシート&gt;)</li> <li>・五大栄養素の種類と働きについて理解している。(記述の分析&lt;ワークシート&gt;、テスト)</li> <li>・栄養素の体内での主な働きによる3つのグループの分け方が分かる。(記述の分析&lt;ワークシート&gt;、テスト)</li> </ul>
	3(本時)	・健康に過ごすために、どのような食事の仕方や工夫をしたらよいか考える。		●		・栄養のバランスを考えて、食品の組み合わせを考えたり、工夫したりしている。(行動の観察、記述の分析<ワークシート>)
	4	・給食の献立に使われている食品を主な働きによって3つのグループに分ける。	●	●		・食品に含まれている栄養素の体内での主な働きにより3つのグループに分けることができる。(記述の分析<ワークシート>、テスト)



第 2 次	5	・御飯と味噌汁の調理について知る。 ・米と味噌について含まれる栄養素や種類などを調べる。	●		・米、味噌の特徴がわかる。 (記述の分析〈ワークシート〉)
	6	・米と御飯の違いを知り、御飯の炊き方を知る。	●		・御飯の調理の炊き方について理解している。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)
	7	・だしについて知り、味噌汁の調理手順を調べる。	●		・味噌汁の調理手順について理解している。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)
	8	・御飯と味噌汁の調理時間と作業を確認し、どのように工夫したら能率よく調理できるか考える。		●	・御飯と味噌汁の調理方法や手順について自分なりに考え、工夫している。 (行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)
	9 10	・2つの調理を同時に仕上げるための学習のめあてを確認する。 ・手順に従って、調理を行う。		●	
	11	・学習を振り返り、これからの生活に生かすことを考える。			●

### (5) 本時(全11時間中の3時間目)

ア 本時の目標

(ア)自分の食生活を振り返り、栄養を考え課題を見付けることができる。

(イ)栄養のバランスを考えて、食品の組み合わせを考えたり、工夫したりしている。

イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5	○食品に含まれる栄養素の3つの主な働きと五大栄養素について復習する。 ○五大栄養素クイズをする。		
展開	30	○今朝食べた朝食を思い出す。 ○授業者が食べた朝食を知り、主な働きによって3つのグループ(五大栄養素)に分ける。	・食品の分類表を参考に考えるよう指示する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">よりよい朝食にするために何を食べるとよいか考えよう。</div> <p>○どんな料理(食品)を食べるとよいか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;○○の朝食&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バタートースト</li> <li>・コーヒール</li> <li>・( )</li> </ul> </div> <p>・1品～3品を考え、なぜそれがよいか理由も含めてワークシート(ホップ・ステップ・ジャンプシート)に記入する。<u>ホップ</u></p>	・3つのグループにどの栄養素が属するかなど注意点を説明する。 ・選んだ食品を3色分けするように指示する。 ・好きなものではなく、健康を考え、栄養のバランスについて考えるよう意識させる。	・栄養のバランスを考えて、食品の組み合わせを考え、工夫している。 [イ][ウ](行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)

展開	30	○班で発表し、話し合う。 <b>ステップ</b> ・順番を決め、一人ずつ発表する。 ・どの組み合わせがよいか話し合う。 ○全体で発表する。 (各班の代表者が、組み合わせを発表する。)	・今まで習ってきたことを踏まえて、よいところやアドバイスを伝え合う。 ・なぜそれがよいか、理由を説明できるように指示する。	・主体的な態度で取り組んでいる。 [ウ] (行動の観察)
まとめ	10	○振り返りをする。 <b>ジャンプ</b> ・友達の発表を参考に、どんな料理(食品)がよいか再考する。 ・自分の朝ごはんを振り返り、よいところや改善したいところを考える。		・よりよくするための工夫を自分なりに考えようとしている。 [イ][ウ] (行動の観察、記述の分析 (ワークシート))

## (6) 本時の振り返り

### ア 授業の導入及び展開の工夫

導入の段階で、前時までの学習の振り返りをしたことやグループ学習を通して、栄養のバランスを考えながら、食品の組み合わせを工夫することができた。導入で行った五大栄養素については、中学校・高等学校でも学習する内容のため、定着させることを意識し、クイズを取り入れ繰り返し学習した。

### イ 対話的・協働的な学習

- ・他者の様々な意見を参考に自分の考えを深めることをねらいとしてグループ学習を行った。
- ・授業者の朝食について、どのようなメニューにしたらよいかを話し合い、良い点や改善点を見付けることができた。また、よりよくするために工夫することや、よりよくしようとする気持ちを育むことができた。

### ウ 課題を解決する力

生徒は、バランスのよい朝食の組み合わせについて、よく考え、取り組んでいた。

グループ学習で、「よりよい朝食」について他者の意見を取り入れながら考えを深めることができた。授業のまとめで各自が記述した「自分の朝食の良いところや、改善したいこと」には、栄養のバランスがとれているかという視点が入っており、学習の定着についても確認することができた。

### 【児童の授業後の感想】

- ・バランスがよいと思った。お母さんがそういうのを考えて作ってくれていることが分かった。
- ・いつもパンばかりだから、りんごとか、みかんとかの手軽に食べられるフルーツを食べた方がよいと思った。
- ・パンにたまごをはさんだだけだったから、今度はサラダなどのビタミンをとりたい。

## (7) 成果と課題

ア アンケート調査と学びのつながり

【具体的な記入内容（児童の記述から）】

質問内容	事前のアンケート	事後のアンケート
「食について知っていることは何ですか」	・バランスのよい食事が大切	・五大栄養素を意識してバランスのよい食事をするのが大切 ・栄養素の3つの働き
「食についてできることはありますか」	・お使い ・残す量を減らし、ごみを減らす ・野菜などを切ったりできる ・料理を作る手伝い	・米研ぎ ・味噌汁作り ・火加減を見る ・自分に合うバランスのよい食事を食べる。
「家で食についてやっていることはありますか」	・皿洗い ・洗い物 ・お使い ・食卓を拭いて箸を出す	・米研ぎ ・時々包丁で材料を切る ・火の当番 ・料理の手伝い
〈事前〉 「食について学習してみたいことは何ですか」 〈事後〉 「食について学習してできるようになったことは何ですか」	・栄養について ・料理の仕方 ・どうすればおいしくなるか	・毎日の食事のバランスを考え直すことができた ・五大栄養素を分類できるようになった ・御飯と味噌汁を作れるようになった
〈事前〉 「将来食についてどのようなことができるようになりたいですか」 〈事後〉 「食について学習をして、これからできるようになりたいことは何ですか」	・栄養をしっかりとること ・環境・体調を考えた食事 ・好き嫌いをなくす ・いろいろな料理を作れるようになりたい	・自分だけではなく家族のことも考えた食事をしたい ・親の代わりに食事を作りたい ・栄養のバランスを考えた食事を作る

学習の定着を確認するため、単元の始めと最後の授業においてできる限り同じ質問内容のアンケートを実施した。それぞれの項目について、記載内容から児童の変容を分析し、以下のことが分かった。

①「食について知っている事」では、事前アンケートでは「バランスのよい食事が大切」と書いていたものが、事後アンケートでは「五大栄養素を意識してバランスのよい食事をするのが大切」、「栄養素の3つの主な働き」等授業で学んだ内容を具体的に書くことができるようになった児童が多かった。この項目においては、92%の児童に変容が見られた。

②「家で食についてできることはありますか」という質問では、手伝いの内容に変化が表れている。事前アンケートでは、「箸・皿並べ」「皿洗い」と書いていたものが、事後アンケートでは、「米研ぎ」「味噌汁作り」「火の当番」など授業内容を生かしたものに变化している様子が見られた。この項目においては、90%の児童に変容が見られた。

③「将来できるようになりたいこと」については、事前アンケートでは、「いろいろな料理を作れるようになりたい」という漠然とした思いが特に多かったが、事後アンケートでは、「両親の代わりに作れるようになりたい」「家族の食事が作れるようになりたい」と家族のためにできるようになりたい気持ちや「栄養バランスを考えた献立、一日の献立を考えてみたい」と書く児童も多かった。この項目については、72%の児童に変容が見られた。また、これについては、

中学校・高等学校との学習のつながりを意識させ、学習の見通しをもたせるために6年生になったら1食分の献立を、中学校では1日分の献立を、高等学校では「家族の食事」について学ぶことを伝えると、学びの世界がどんどん広がっていくことを喜んでいた。

今回のアンケートでは、家庭での実践については、学習内容を生かしているとは判断できるだけの頻度や内容の詳細を読み取ることが難しかった。また、手伝いについては、中学校や高等学校へのつながりを意識させることにもつながるため、より多くの児童が習慣化し、家族の一員として意欲的に取り組んでいけるよう継続した指導が必要である。

「御飯を食べるとき栄養について考えるようになった」「好き嫌いをしないで残さず食べるようになった」という児童の記述が多かったことから、栄養素の働きを理解していることも読み取れた。しかし、給食では今までと変わらず嫌いな食材を残してしまう児童もいるため、学習内容を自分のこととして捉え、日常に生かす指導の工夫も必要であることが明らかになった。

アンケートは自由記述にしたため、質問に対し、どのように答えたらよいか分からない児童もいた。アンケートを行うねらいを児童に対して、より明らかにし、具体的な回答ができるように例を挙げたり、質問文を再考したり、回答を数値化したりするなど改善の余地がある。

#### イ 対話的・協働的な学習（グループ学習）

自分の考えを発表し、他者のよいところを認め、アドバイスをする時間とした。他者にアドバイスをするのは難しいようだったが、自分では思い付かなかった考えに対しての称賛や他者の意見から自分の考えをよりよくできることに気付いた発言があった。ワークシートの「ジャンプ」の部分では、グループ学習で得た他者の意見を基に自分の考えを深めることができたため、グループ学習はとても有効だったと考えられる。

#### 【児童の発言】

他者への賞賛：「なるほど！（よく気が付いた）」「～だとたくさん栄養がとれるね。」  
 自分の考えをよりよくできる気付き：「ヨーグルトとフルーツを考えただけでフルーツヨーグルトにすれば手軽だね」

#### 【ホップ・ステップ・ジャンプシート（小学校）】

#### ウ ワークシートの活用と評価

自分の考えをもつ（ホップ）、友達のことを聞いて自分の考えを広げる（ステップ）、自分の考えを深め、自分の生活について振り返る（ジャンプ）の三段階で学習が進められるワークシートを作成した。ホップ→ステップ→ジャンプと考えの深まりや広がりが見えるように記入するスペースがだんだんと広がるように工夫した。

<b>ホップ・ステップ・ジャンプシート</b>		5年 組(      )
よりよい朝食にするために何を食べるとよいか考えよう。		自分の今日の朝食
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>先生の今日の朝食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーヒー</li> <li>●バタートースト</li> <li>・バター… (      )</li> <li>・食パン… (      )</li> </ul> <p>あと何を食べるとさらによくなるかな？</p> </div>		<p><b>ジャンプ</b></p> <p>友達の考えを聞いてから自分の考え</p>   <p>自分の朝食をふりかえって (よいことや改善したいことを書こう)</p>
<p><b>ホップ</b> 自分の考え</p> <p>&lt;理由&gt;</p>	<p><b>ステップ</b> 友達の考え</p> <p>(      )さん</p> <p>(      )さん</p> <p>(      )さん</p>	

ホップでは、目標を担任の朝食の献立を改善することとし、全員が改善案を書くことができた。また、前時までには学習した五大栄養素や栄養素の3つの主な働きについて意識することもできた。ステップは他者の考えをメモできるようにし、ステップ（話し合い活動）を終えた後、学級全体で発表する時間も設定した。これらを通して新たな発見が多くあり、ジャンプでは、献立を再考し、献立を考える上で大切なことや手軽に多くの栄養をとる方法などに気付くことができた。授業のまとめとして、自分の朝食を振り返り、改善すべきところやよいところ、今後どうしていきたいかについて考えさせた。家族が自分のためにしてくれていることや、自分の朝食の栄養バランスが分かり、多くの児童が今後の課題や展望を見付けることができた。

全体的には、児童の思考の流れが明確になり、分かりやすいワークシートとなったが、自分の生活をより具体的に考えることができるように、自分の朝食を記入する欄や、自分の考えをよりはっきり伝えるために理由を記入する欄を設ける必要がある。

ワークシートは、ステップからジャンプでどのような変容が見られたか、または自分の考えがどのように深まったかについて評価した。栄養のバランスを考慮した記述があるものをBとし、五大栄養素など具体的な記述があるものをA、書いているが内容が適切でないものをC、無記述のものをDとした。評価はワークシートの返却時に、A評価がついた記述を紹介し、よかった点や参考にしてほしい点を伝えた。

グループ活動では、主体的な態度が見られる児童を記録し、評価に加味する形をとった。検証授業時に、複数の教員で児童の行動の観察を行い、発言内容についても注意深く聞き取ったが、全て見取ることができなかったことや、一人の教員が授業中に行う行動観察の結果と差がないため、評価方法の見直し等課題が残った。

## 実践事例2（中学校）

教科名	技術・家庭科	科目名	家庭分野	学年	中学1年
-----	--------	-----	------	----	------

### （1）単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元（題材）名：食生活と栄養、献立作り

イ 教科書：新編 新しい技術・家庭（家庭分野）

### （2）単元（題材）の目標

- ・自分の食生活について関心をもち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考える。
- ・栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考える。
- ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。
- ・中学生の1日分の献立を考える。



### (3) 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割や健康によい食習慣の重要性、栄養素の種類と働き、中学生に必要な栄養素の特徴、食品の栄養的特質、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。</li> <li>・食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。</li> <li>・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康によい食習慣などについて考え、これからの生活を展望し課題を解決している。</li> <li>・自分の献立の課題を見付け、よりよい献立となるよう料理や食品の組み合わせについて考え、課題を解決している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の食生活や中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、健康によい食習慣について考え工夫し、日常生活で実践しようとしている。</li> <li>・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について関心をもち、食品について調べたり、計量したりしている。</li> <li>・中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養量を満たす食事のとり方を工夫し主体的に実践しようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元(題材)の指導と評価の計画 (11時間扱い)

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
			知	思	主	
第1次	1	・食事の役割を理解する。	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割や健康によい食習慣の重要性について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> <li>・自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康によい食習慣などについて考え、これからの生活を展望し課題を解決している。(記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
	2 3 4	・栄養素の種類と働きを知る。	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素の種類と働きについて理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> </ul>
第2次	5	・中学生に必要な栄養の特徴について考える。	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に必要な栄養素の特徴について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> <li>・自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え工夫し、日常生活で実践しようとしている。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> <li>・中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、よりよい食生活に向けて自分の食事を工夫しようとしている。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
第3次	6 7	・食品に含まれる栄養素を調べる。	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の栄養的特質について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> </ul>
第4次	8	・食品を6つの食品群に分類する。	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> </ul>
	9	・食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> <li>・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について関心をもち、食品について調べたり、計量したりしている。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> </ul>



第5次	10	・指定された朝、昼食から、栄養のバランスを考えた夕食を考える。	●	・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を検証し、課題を見付けている。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)
	11 (本時)	・自分の考えた献立を検証し、よりよい献立にする。	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題や改善策を発表したり、他の発表を聞いたりしてアドバイスをし合い、よりよい献立になるように工夫している。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> <li>・中学生の1日分の食事のとり方に関心を持ち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> <li>・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立の立て方について理解している。(記述の分析〈ワークシート〉、考査)</li> </ul>

### (5) 本時 (全11時間中の11時間目)

#### ア 本時の目標

- (ア) 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立の検証をして、課題を見付ける。
- (イ) 自分の立てた献立について、課題や改善策を発表したり、他の発表を聞いたり、参考書で調べ、アドバイスをし合う。
- (ウ) 自分の課題を解決するために栄養を考えた食品の組み合わせを工夫する。

#### イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を確認する。</li> <li>・なぜ栄養のバランスのよい献立がよいのかを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は体をつくる、活動のエネルギーになること。食習慣で生活習慣病を予防できることを説明する。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ねらい</span> バランスのよい食事について考えよう～献立作り～         </div>				
展開①	13分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた献立を検証する。</li> <li>・夕食の食品を6つの食品群に分ける。</li> <li>・自分の考えた1日の献立と食品群別摂取量の目安との過不足を調べ、自分の献立を検証する。</li> <li>・自分の1日分の献立の課題とよりよくするための工夫を考える。</li> </ul> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ホップ</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品群が分からないときは、教科書を参考にするよう指示する。</li> <li>・過不足を記号で表すよう指示する。</li> </ul> 例) ちょうどよい・・・○ 多い・・・●● 少ない・・・△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を検証し、課題を見付ける。[イ](記述の分析〈ワークシート〉)</li> <li>・自分の課題を解決するために、栄養を考えた食品の組み合わせを工夫する。[イ](記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>

展開②	24分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい献立になるように班でアドバイスし合う。</li> <li>・班で自分の課題とよりよくするための工夫を発表する。 [ステップ]</li> <li>・班員はアドバイスをする。</li> <li>・班でのアドバイスを2、3班発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のワークシートを見せながら発表するよう促す。(1人5分程度)</li> <li>・アドバイスはなるべくほかの人のものと重ならないようにたくさんあるとよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題や改善策を発表したり、他の発表を聞いたり、参考書で調べ、アドバイスをし合う。[イ](行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
まとめ	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を確認する。</li> <li>・自分の課題と解決のための工夫をまとめる。 [ジャンプ]</li> <li>・本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことに注意して献立を立てるとよいかをまとめるよう促す。</li> <li>・2群を上手にとる方法の具体例を示す。</li> <li>・数人に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の1日分の食事の摂り方に関心を持ち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。[ウ]</li> <li>・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。[ア](記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>まとめ</b> 献立を考える際には、栄養を考えた食品の組み合わせを工夫する。         </div>				

## (6) 本時の振り返り

### ア 授業の導入及び展開の工夫

本時は、献立作成という題材について小・中・高等学校の系統性を考慮することを意識した授業の導入及び展開を行った。生徒は小学校で、1食分の献立作成について学習しているため、中学校での「自分の1日分の献立作成」という内容にスムーズに取り組むことができた。また、高校での献立作成は、成人・高齢者・乳幼児を含む家族の献立を作成することになることを伝えたところ、非常に興味を示した。ライフステージによって栄養素の摂取量が違うことについてまでは踏み込まなかったが、生徒は、成長期の現在の自分と、将来の自分や家族の健康について見通しをもって献立作成をすることができた。

### イ 対話的・協働的な学び

本時は、あらかじめ作成した献立のバランスを検証するため、献立の材料を6つの食品群に当てはめ、過不足の確認をした。その後、グループ学習を行い、作成した献立の問題点やその解決方法を、グループ内で発表し、班員から意見をもらうという形にすることで、相互にアドバイスができるようにした。授業の最後にグループ活動で話し合われた内容を発表した。指導者が発表の内容を焦点化し発表方法を例示したことで、スムーズに行うことができた。グループ討議では、よりよい解決方法を考える班、多くの種類の解決方法が話し合われた班があった。また、本人の好みにも合う献立にしようとして話し合いを重ねる班も多く、自分の生活を振り返って考えている様子も見られた。

### 【グループ活動についての生徒の記述 (ホップ・ステップ・ジャンプシートから)】

- ・2群の食品が足りていませんでした。友達のアドバイスで、ヨーグルトやコーヒー牛乳をとることにしました。自分が気付けないことに気付けてよかったです。
- ・1人で考えたりするのではなく、他の人に聞くと五大栄養素のバランスもよくなった。
- ・班員の献立を考えても「嫌い」と言われ、やり直した。献立作成は難しかった。

## (7) 成果と課題

### ア アンケート調査と学びのつながり

知識の定着を確認するために行った事前・事後アンケートは次の通りである。

質問事項	事前アンケート	事後アンケート
「自分の食事について、どんなことを考えてとっていますか。実践していることはありますか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく噛む</li> <li>栄養バランスを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>料理に入れる食品の量に気を付ける</li> <li>料理の彩り（見た目）や種類にも気を付ける</li> <li>4群はたくさんとる</li> </ul>
「献立作りについて、どのようなことを知っていますか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>バランスのよい食事になるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品群別摂取量で、食べる量を調べる</li> <li>組合せや費用、匂も要素である</li> </ul>
「1日分の献立を作成できますか。」	下表参照	下表参照
「献立作りについて、興味をもっていること、やってみたいことは何ですか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>五大栄養素が全て入っている献立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>彩り、種類、栄養を考えておいしい献立をつくる。</li> <li>味噌汁など材料をたくさん使う献立だと1日に何種類の調理で必要な食品を全てとれるのか検証したい。</li> </ul>

### 「1日分の献立を作ることができますか？」

	できる (4)	ややできる (3)	あまりできない (2)	できない (1)
事前	<b>16%</b>	<b>34%</b>	<b>34%</b>	<b>16%</b>
事後	<b>33%</b>	<b>47%</b>	<b>18%</b>	<b>2%</b>

献立作りについて、事前アンケートでは、「できる」「ややできる」の項目を選んだ生徒が約50%であった。生徒による自己評価ではあるが、小学校での学習内容について、半数の生徒が理解できていると確認できた。実際の授業でも、「どんなことに気を付けるか」と問うと、多くの生徒が栄養のバランスが大切と答えていた。

事後アンケートでは、「できる」「ややできる」の項目を選んだ生徒が80%に増えた。生徒個人の変容は、献立作りについて、「できない」「あまりできない」からできる方へ上昇した生徒が57%、変わらなかった生徒が37%、下がった生徒が6%いた。下がった生徒の理由としては、献立作成に必要な食品の概量を活用することが難しい、バランスを整えるのが難しいという理由が挙げられている。

食品群別摂取量のめやすを活用し、1日の献立の栄養バランスや食材の過不足を生徒自身が確認できるようにしたため、栄養のバランスに加えて量も重要であること、食事の時間や彩りなど、様々なことが関係するということに気が付く生徒も多く、事後アンケートでは、その気付きについて記述する生徒も多く見られた。

アンケート実施の課題として、次のようなことが挙げられる。

生徒の現状や、変容を正確に分析・把握することは授業に有効であるが、質問の仕方や記述のさせ方などが大変難しいことが分かった。調査、アンケートは、単元の目標が達成でき

たか、家庭で実践できるか、将来の展望ができるか等数値化できるように測るものの方が変容を確認しやすい。また、事前に教員がどのようなことを身に付けさせたいのか、目標をはっきりさせ、準備をする必要もある。今回は漠然とした聞き方のものが多かったため、表のように生徒の記入の内容の幅が広く、見取りも難しいものとなった。

学習内容の定着を図るための基礎的な知識の確認と繰り返し学習を意識的に行った。単元の最初(1時間目)に行事食の役割や健康によい食習慣の重要性を振り返ることをスタートとした。事前の調査から、生徒はバランスのよい食事が健康によいと知っているにも関わらず、実際に自分の食事を計画しようとするのが好きなものだけを食べたいと考える生徒が多いことが分かった。栄養バランスのよい食事によって、健康な体を作っていることや生活習慣病を予防していることを、単元の最後(11時間目)にも再確認させ定着を図った。

### イ 対話的・協働的な学習(グループ学習)

本検証授業ではお互いにアドバイスをし合うという形式により4人分の献立を検証することにしたため、短時間で多くの献立を作成し、家庭での実践の機会があまりないことを補足することとした。

さらに、生徒の記述から「他者のアイデアで自分にはない考えがあり、自分に新しい気付きがあった」という記述が多く見られたため、この題材でのグループ学習は、他者からの刺激を受けて自分の考えを深める活動になったと言える。

グループ学習での課題は、基礎的な知識を理解させることと時間配分のバランスをとることが難しいことが挙げられる。アドバイスをし合う時間を確保し、発表まで行くと時間が足りないことが多い。また、自分の課題を自分で見付けることができない生徒がいる場合の指導を丁寧に行うと一人の生徒に対応する時間がかかる。生徒の活動の時間を多くできるよう、説明や発問の工夫をするなど、内容の精査も必要であると考えた。

### 【ホップ・ステップ・ジャンプシート(中学校)】

3. バランスのよい食事について考えよう ～献立作り～ ( )年( )組( )番 氏名

1 献立を作るとき条件を考えよう。

2 朝食、昼食の例を参考に栄養のバランスを考えながら、夕食の献立を立てよう。

3 自分が考えた夕食が1日の栄養量を満たしているか検証しよう。  
 (1) 夕食の献立の食品がどの欄に当てはまるか、○をつけよう。  
 (2) 自分が考えた夕食を検証してみよう。(適不足をマークで表示)

献立	食品名	1日分の栄養素					
		1群 食・肉・卵・ 豆・魚類	2群 牛乳・乳製品 大豆製品	3群 緑黄色 野菜	4群 その他の野菜 海藻類	5群 穀類・ 豆類・ 薯類	6群 油脂
朝食	...	...	...	...	...	...	
昼食	...	...	...	...	...	...	
夕食	...	...	...	...	...	...	

4 よりよくなるための工夫を考えよう。

課題	解決法	課題	解決法
多い	どの食品をどれくらい減らすか。	多い	どの食品をどれくらい減らすか。 本人の解決法でよい。
少ない	どの食品を増やすか。 どの料理を足せばよいか。	少ない	どの食品を増やすか。 どの料理を足せばよいか。

5 あなたの献立を作成する際にどんなことに気をつけるとよいか、具体的に食品群や食品をあげてまとめよう。

ジャンプ:深めた自分の考え

### ウ ホップ・ステップ・ジャンプシートの活用と評価

自分の課題の解決方法が広がる過程が分かりやすく、思考の流れと深まりが視覚的に見えるようホップ・ステップ・ジャンプの欄を右上がりになるよう配置した。また、食品群や食材を具体的に記入するように指示し、課題の設定として献立の過不足を補充することに絞った。これからの実生活に主体的に取り入れようとする態度や、自分の課題を改めて認識し具体的に改善していこうとする姿勢がうかがえ、記述内容を評価する際には生徒の考え方の変容がよく分かり見取りやすいものとなった。

今後、ワークシートを作成する際、自分の考え方の変容を生徒自身が認識でき、より思考の深まりや広がりを実感できるワークシートの作成の工夫が必要である。

評価については、検証授業時に、教員が生徒の行動観察を行い、発言内容についても注意深く聞き取ったが、グループ活動で意見の討議などが行われている時の個人の見取りはほとんどできなかった。

そのため、今回は、ワークシートの記述により評価した。ワークシートは、ホップからジャンプまででどのような変容が見られたか、または自分の考えがどのように深まったかについて評価した。「野菜をとる」など栄養のバランスを考慮した記述があるものをBとし、B評価の内容に加え将来の展望を記述しているものをA、書いているが内容が適切でないものをC、無記述のものをDとした。グループ学習などを通して培われる「思考力・判断力・表現力等」の評価について具体的な評価場面・方法を今後も検証していく必要がある。

### 実践事例3（高等学校）

教科名	家庭	科目名	家庭総合	学年	高校2年
-----	----	-----	------	----	------

#### (1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名：第2章 「着る」
- イ 使用教材：「家庭総合 明日の生活を築く」
- ウ 副教材：「ニュービジュアル家庭科」

#### (2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 着装に関心をもち、自分の個性を見つめ、自分らしい着装について考える。
- ・ 既製服の購入は、自分のサイズなどを知った上で試着するとともに、被服の選択ができる力を身に付ける。
- ・ 被服材料について科学的に理解し、被服材料の性能改善と着心地などについて考える。
- ・ 洗濯・手入れなど自ら衣服を管理する知識や技術を身に付ける。洗剤のはたらきや汚れが落ちるしくみ、洗濯方法などについて科学的に理解する。
- ・ 繊維資源の大量消費の実態を理解し、繊維の有効利用をその必要性と方法について考える。



### (3) 単元の評価規準

ア、知識・技能	イ、思考・判断・表現	ウ、主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理などについて、科学的に理解し、自立した生活者に必要な衣生活や環境に配慮した知識・技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理などについて、問題を見だし、課題を設定し、解決策や実践を評価・改善している。</li> <li>・ 衣服材料、被服の構成を科学的に理解し、論理的に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着衣、被服材料、被服の構成、被服管理などについて、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元（題材）の指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
			知	思	主	
第1次	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして衣服を着るのかを考える。</li> <li>・ 自分のサイズを知り、既製のサイズの表示について理解する。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被服の機能を着衣について関心をもっている。</li> <li>・ 採寸の仕方が理解し、自分のサイズを理解している。(行動の観察、記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
第2次	3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊維についてのDVD「目で見る繊維の基礎」を視聴する。</li> <li>・ 被服材料の加工について理解する。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊維の特徴を理解している。</li> <li>・ 素材や性能について科学的に捉え、知識を生かそうとしている。(記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
第3次	5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚れの種類について理解する。</li> <li>・ 洗濯の方法と特徴、洗濯用洗剤の種類と特徴を理解する。</li> <li>・ 界面活性剤の働きについて実験を通して理解し、汚れが落ちる仕組みについて理解する。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚れには、いろいろな種類があることを知っている。</li> <li>・ 洗剤に含まれている成分、その特徴について理解している。</li> <li>・ 洗濯のはたらきや汚れが落ちるしくみ洗濯方法などについて科学的に理解している。(記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>
第4次	7 ・ 8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衣生活と、資源や環境問題との関わりを知る。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊維資源の大量消費の実態を理解し、繊維の有効利用の必要性とその方法を理解している。環境に配慮した衣生活が選択できるか。(記述の分析〈ワークシート〉)</li> </ul>

### (5) 本時（8時間中の7・8時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 私たちの衣生活は、資源や環境問題とどのような関わりをもっているかを、「A:洗濯の環境への影響」「B:不要衣服」「C:ファストファッション」「D:衣生活の資源と環境」の課題から理解する。
- (イ) 他者との話し合いを通して、課題を解決する力を身に付けさせる。



## イ 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を理解する。</li> <li>「小・中学校で学習や今までの経験から、自分が思いつくこと」をポップ・ステップ・ジャンプシート（以下ワークシート）に記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を確認する。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー学習の進め方を確認する。</li> <li>①エキスパート活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>各自、資料を読み、重要なことをまとめる。ジグソー活動になってから説明ができるように、ワークシートにまとめる。</li> </ul> </li> <li>②ジグソー活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート活動での情報を班員に説明する。</li> <li>ワークシートに説明内容をまとめる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習の進め方を伝える。</li> <li>資料を活用し、エキスパート活動の役割を自覚させる。</li> <li>課題について、各班に助言をする</li> </ul>	行動の観察・記述の分析（ワークシート）[イ] [ウ]
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの情報を聞き、その情報をもとに、班で話し合い、考えをワークシートにまとめ、課題と解決策を記入する。</li> <li>その後、各班で話し合ったことを模造紙に各班まとめる。</li> <li>③クロストーク（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>班の代表がまとめた意見を発表する。</li> <li>他の班の意見をワークシートに記入する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの課題をピックアップしてまとめてもよいことを伝える。</li> <li>班の代表者に発表させる。</li> <li>他の班の意見を記入するように促す。</li> </ul>	行動の観察・記述の分析（ワークシート）[イ] [ウ]  行動の観察・記述の分析（ワークシート）[イ] [ウ]
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> <li>今日の学習を通して、最初に自分で考えたことと比べ、班で話し合ったことや他の班の発表を聞いて、自分の考えが深まったことや考えたこと、これからの生活で実践したいことを具体的に書く。</li> </ul>		行動の観察・記述の分析（ワークシート）[イ]

## (6) 本時の振り返り

### ア 課題を解決する力

「衣生活は資源や環境問題とどのような関わりをもっているか」という質問に対して、「A:洗濯の環境への影響」「B:不要衣服」「C:ファストファッション」「D:衣生活の資源と環境」の四つの課題の資料を多数の教科書や資料集から教員側で準備し、生徒がそれぞれの課題について調べ学習を行った。調べ学習を行ったことや、クロストークでの説明を通して、課題に対する理解が深まり、深い学びにつながった。

## イ 対話的・協働的な学習

グループ学習では、自分の役割を意識させ、責任をもって他者に伝える場面を意識的に設定し、生徒は、他者の意見を聞き、相互に理解し問題を解決していくジグソー法を用いた。初めての学習方法に戸惑いを見せながらも、自分たちで意見をまとめられたという達成感を味わうことができた。

## (7) 成果と課題

### ア アンケート調査と学びのつながり

本校の生徒は、小・中学校での「家庭科」の学習と高等学校の「家庭総合」での学習と合わせると、約300時間程度家庭科を学習していることになる。しかし、知識・技術が定着し、それが家庭生活で活用されているとは言えない現状がある。家庭科を学習する最終学年として、生徒自身が今後自分の生活をよりよくしたり、新しい家族を形成し生涯にわたって自分らしい人生を送ったりするためには、衣生活の自立は重要である。そこで、衣生活の自立度チェックとして事前アンケートを行った。17項目について、それぞれ同じ内容で「A知っている」「Aすることができる」という形で、4段階（あてはまる…4、ややあてはまる…3、あまりあてはまらない…2、あてはまらない…1）で行った。自由記述に衣生活の学習を通して「今後できるようになりたいこと、授業で学習したいこと」を記入する欄を作った。今回の検証授業の内容に関しては、下記のように変容した。

【アンケート (%)】

		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
環境に配慮した衣生活の方法を知っている	事前	33.0	24.5	30.9	11.7
	事後	53.2	33.0	11.7	2.1
環境に配慮した衣生活を送ることができる	事前	29.8	20.2	35.1	14.9
	事後	37.2	39.4	20.2	3.2

「環境に配慮した衣生活の方法を知っている」については、事前アンケートでは「あてはまる」「ややあてはまる」は、57.5%であったが、事後アンケートでは86.2%に、実際に「環境に配慮した衣生活を送ることができる」が事前アンケートで50%、事後アンケートでは76.6%と増え、生活の中で活用できる知識や技能が身に付いたといえる。その他の項目で「～ができる」が低かった項目は、「TPOを理解し、TPOに応じた服装を選択できる」、「被服の取扱い絵表示を知り洗濯時に活用できる」、「ボタンつけやほつれを自分で直すことができる」であった。例えば、「TPO」については、「衣服の機能」と絡め、繰り返し授業の中で行った。このように、学習前の事前アンケートは、生徒の実態を知ることができ、できてい

ない単元を重点的に学習指導することができるため、生徒の知識の定着につながる。その後、事後アンケートも同じ項目で行い、衣生活の学習を通して「できるようになったこと、自分の生活で実践するようになったこと」を記述してもらった。多くの生徒が具体的に書いてくれたが、学習直後であるためこのような結果となったと考えられる。この調査を1年後などにも行い、更に分析すると生徒の定着の状況が分かるので、実施する予定である。

#### イ グループ学習

今回は、ジグソー法でグループ学習を行った。まず、エキスパート活動では、四つの課題について、各自で資料を読み、重要だと思うところに線を引くなどして確認させた。1人では理解できないことがあるので、その後、課題ごとに4～5人のグループで、再度重要な点をまとめさせた。生徒は互いに意見を出し合い、課題解決に取り組んでいた。しかし、一部の情報しか読み取ることしかできないグループがあり、教員側から助言を加える必要があった。その後、ジグソー活動のグループになり、各課題を1人ずつ発表させた。それぞれの課題を発表するごとに、「ファストファッションとエンカルフファッションの違いは?」、「オーガニックコットンって何?」など、質問が出ていた。発表した生徒は質問に答え、それに対して「オーガニックコットンを使用した商品を買うことはよいが、高いのでは?」などと、新たな質問に対して考える姿が見られた。エキスパート活動では、同じ課題を解決するため、他の生徒に頼りあまり意欲的ではなかった生徒も、ジグソー活動になり他の生徒へ説明ができなかったり、質問があったりしたときは、もう一度資料を読み返し、自分が与えられた役割をしっかりと果たそうという意識が出てきて、この活動を通して生徒の取り組む姿勢の変化を見ることができた。下記は、このグループ学習についての生徒たちの自己評価である。

	A よくできた	B だいたいできた	C あまりできなかった	D できなかった
①班のメンバーと協力して取り組めた	33.9%	54.1%	10.1%	1.8%
②自分の気付きや考えを表現できた	23.9%	58.7%	13.8%	3.7%
③自分の考えや視野は広がった	28.4%	59.6%	9.2%	2.8%
④グループ学習は、意欲的に取り組めた	33.0%	49.5%	11.9%	5.5%
<b>授業の感想</b> ・自分にはない考えをもっている人の意見を聞くことができ、自分の視野が広がった。 ・少人数だったので、よく話し合えた。他の人の意見を聞くのは、楽しかった。 ・自分だけでは分からなかったことも、みんなと話し合ったら、理解できた。 ・資料を他の人に説明するのは難しかったが、みんなで話し合っまとめてるのが、楽しかった。				

このグループ学習では、資料を読み解き説明し、話し合いの内容を発表したことで、思考力・判断力・表現力を高めることができた。そして、同じ課題であったが、それぞれのグループの生徒たちの理解の仕方、いろいろな角度から物事を捉えることができ、学びが広がったと言える。

#### ウ ホップ・ステップ・ジャンプシートの活用と評価

学習を通して、生徒たちの変容を読み取るために、ホップ・ステップ・ジャンプシートを活用した。第一段階の自分の考えを明確にする「ホップ」では、「私たちの衣生活は、資源や環境問題とどのような関わりをもっているか」について、自分が思い付くことを書かせた。多くの生徒は、小・中学校の学習から古着のリサイクル、洗濯の排水の問題、ペットボトル

から洋服を作るなどを挙げたが、全く分からないと記入した生徒も全体の4分の1ぐらいいた。第二段階の他者の意見や発表から自分の考えを広げる「ステップ」では、ジグソー活動を通して、ワークシートに自分の意見をまとめる欄や、活動ごとにメモを取り、重要な点を記入する欄を作り、自分の考えが深まっていく過程が分かるように作成した。グループで発表するときは、自分たちが考えたことを分かりやすく伝える方法として、模造紙にまとめさせた。第二段階を踏まえて自分の考えを深める「ジャンプ」となる第三段階では、グループ発表を通して、他の班の意見を聞き、自分の考えが深まったことやこれからの生活で実践したいことを具体的に書かせた。生徒は、「生活の中で自分は環境に悪いことを知らずに行っていることを知った。服を多く買う癖があるので、じっくり考えて買い、長く使いきるようにしたい。また、みんなにも伝え環境を少しでもよくしたい」など、授業を行ったことによる生徒の理解の深まりが分かった。また、生徒自身もワークシートで自身の学び深まりが分かり、達成感を得ることができた。

評価については、グループ学習では、すべての取組を正確に評価することは難しく、今回はワークシートで行った。ワークシートの①「ホップ」「ステップ」に自分の意見や学習のメモが取られているかと、②「ジャンプ」で授業を通して変わった自分の考えと、今後どのように生活に生かしていきたいかを具体的に書

### 【ホップ・ステップ・ジャンプシート（高校）】

2年 家庭総合 被服 2年( )組( )番( )		②班のメンバーの話を聞き、「私たちの衣生活は、資源や環境問題とどのような関わりを持っているか、環境に配慮した衣生活を送るにはどのようにしたらよいか」について話し合い、考えをまとめる。	
1. 「私たちの衣生活は、資源や環境問題とどのような関わりを持っているか」について、今、自分が思いつくことを書きましょう。		①ホップ	
2. ホームグループ活動		②ステップ	
A 洗濯の環境への影響	さん	私のホームグループは ( 1、 2、 3、 4 ) 班 私のエキスパートグループは ( A B C D ) 班	
B 不用衣服	さん		
C ファストファッション	さん		
D 衣生活と資源と環境	さん		
3. エキスパート活動		5. クロストーク 班の発表	
①(個人活動) 配布された資料を読み、重要なところに下線を引く。		( ) 班	
②(グループ活動) 課題について班で、話し合う。		( ) 班	
次の活動で説明ができるように、各自でまとめる。		( ) 班	
まとめ		⑥今日の学習を通して、最初に自分で考えたこと(ホップ)と比べ、班で話し合ったことや他の班の意見(ステップ)を聞いて、自分の考えが深まったことや考えたこと、これからの生活で実践したいことを具体的に書きましょう。	
4. ジグソー活動		③ジャンプ	
①エキスパート活動での内容を各自2分程度で説明する。(簡単なメモをとる)			
資料( ) ( ) さん			
資料( ) ( ) さん			
資料( ) ( ) さん			

いているかの2項目で評価した。①の項目では「ホップ」では「分からない」という記載が多かったが、「ステップ」では洗剤の使用量や、リサイクルについてなど具体的な記載が増えた。②の項目は、事後アンケートにあるように8割の生徒が授業者の設定している目標に達成しているということが分かった。

## VI 研究の成果

### 1 検証授業による成果

#### (1) 知識の定着と学習のつながり

基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るためには、学びのつながりを意識した授業の導入及び展開を工夫し、学びを繰り返すことが必要と仮定し、児童・生徒に事前・事後アンケート調査を行った。各校種の児童・生徒の実態に合わせて作成したが、どの校種においても、

記述内容から児童・生徒の変容の読み取りは、概ね達成できた。アンケート用紙を事前・事後アンケートで1枚にすることにより、生徒も、自分自身が今までできなかったこと、知らなかったことがどのように変化したかを確認する機会を設けることができ、達成感にもつながった。教員の方では、知識、技能の不足部分を把握することができた。

## (2) グループ学習

思考力・判断力・表現力を高める学習活動の取組として、他者との対話的・協働的な学習を通して、一人一人の思考を広げ、自分自身の生活の課題解決へと導くことができた。各校種で児童・生徒の発達段階や学習内容に合わせて、少人数のグループ学習やジクソー活動など指導方法の工夫をし、自分の意見を伝え、他者の意見を聞き、それを基に自分の考えを深めることができた。その際、自身の考えの変容が分かるようなホップ・ステップ・ジャンプシートを活用し、学びの広がり、深まりを読み取った。また、児童・生徒自身が自分の学びの変化が視覚的に分かるように作成し活用した。多くの児童・生徒が意欲的に取り組み、学びを深めることができたが、他者との交流を苦手とする生徒も少なくない状況がある。授業の一環として半ば自主的ではない部分もあるが、他の人の前で自分の考えを伝える機会を設けることで日常の学校生活では見ることのできない関係性が生まれた。学びのつながりだけでなく、生徒同士のコミュニケーションにおけるつながりを作ることもできた。

## (3) 小・中・高等学校での家庭部会

家庭科の学習内容は小・中・高等学校で共通する内容が多い。それぞれの校種で学習指導要領を基に、学習を繰り返す、学びを積み重ねていくことが重要である。小学校は中学校の内容を見通して、中学校では小学校の学びの上に中学校の学習内容を積み重ねて行っている。高校でも同様である。

実際に、生徒の現状や課題を小・中・高等学校で話し合っていくと、普段知ることのできない各発達段階における学習の系統性が具体的になった。例えば、食物分野の献立作成では、小学校では「1食分の献立を考える」、中学校では「1日分の献立を考える」高校では、「幼児や高齢を含む家族の献立を考え、ライフステージで適切な食生活を送れる献立を考える」などである。このような学習のつながりを児童・生徒に話すことによって、児童・生徒の興味・関心が広がったようであった。また、私たち教員も他校種の児童・生徒の学習に対する興味・関心の様子を知ることができ、新鮮でそこから得る学びが大きかった。

## 2 学習内容における自己評価及び相互評価における成果

「ホップ・ステップ・ジャンプシート」の最後に、振り返りと自身の考えの記述欄を設け、考えの変容が明らかになったことで、自己肯定感が深まり、自分の気付きや変化を自分自身でも読み取ることができ、自己評価とすることができた。また、グループ活動の中で、他者の考えを聞き、自身の考えを深め、意見交換を受けて再考し、取り入れたことで、意見や提案してくれた他者への評価にもつながった。ホップ・ステップ・ジャンプシートの「ジャンプ」の記述事項から、グループ活動における相互評価を読み取ることができる。したがって今回のワークシートは有効に活用することができた。



## Ⅶ 今後の課題

### 1 検証授業による課題

アンケートは、教員の把握したい内容を正確に答えられるように質問事項の文言を精査する必要があった。また、教員の言葉かけにより、児童・生徒たちの記入内容が、大きく変わることもあった。具体的な変容を読み取るのには自由記述がよいが、何を書いてよいか分からない児童・生徒もいた。客観的に分かりやすいのは数値化したものであるが、あまり考えないで答える生徒もいた。また、より細かい部分の内容であればあるほど、毎回の單元ごとに定着状況の確認として実施をするのは難しい。

今回は、単元(題材)の導入とまとめで行ったが、長期的アンケートの実施からでなければ、学びの定着を図ることは困難であることも分かった。学年の終わりや1年後など、学びの繰り返しの場面を意識的に設定するなどして計画的で継続的なものが必要である。

グループ学習では、話し合う時間やまとめる時間が足りないグループもあった。十分に時間を確保する授業計画の検討も必要である。また、グループによっては話し合いが活発に行われず、教員からの助言が多く入ったグループや一部の児童・生徒が中心となって進めたりするグループ、特に高校では「普段の受け身の授業の方が楽だった」という消極的な生徒などをどのようにするかが、今後の課題である。現行学習指導要領でも、授業において「言語活動を充実」させることが重要としており、授業の活動の一つとして、自分の考えを話すことを定着させる必要があることも、教員側としても常に意識しておかなくてはならない。

### 2 生徒の実態を踏まえた思考力・判断力・表現力を高める学習活動の取組

グループ学習では、個人の発表にとどまらず、他者の意見を聞き、共有し、他者の考えを自分の考えに加えさせたい。そのために、教員が適宜適切なアドバイスをすることが重要になってくる。児童・生徒に応じてアドバイスの方法を変えるなどの工夫が必要となるため、児童・生徒の実態を捉えておくことが必須となる。

ワークシートは、第一段階の自分の考えを明確にする(ホップ=計画・実行)、第二段階の他者の意見から自分の考えを広げる(ステップ=実行・評価)、第三段階の第二段階を踏まえ自分の考えを深める(ジャンプ=改善)の流れを誰が見ても分かるようなワークシートとして作成し、児童・生徒が自身の思考の深まりを実感できるものとするのが重要となる。

### 3 学習指導に応じた評価計画の立案

対話的・協働的な学習に対応した適切な評価の在り方について、小・中・高等学校家庭部会では、結論を出すことができなかった。このため検証授業で、授業者はもちろんであるが、授業者以外も児童・生徒の取組を観察したが、多くの教員の目で総合的に判断すれば、公平に生徒を評価することができることが分かった。しかし、普段の授業では1人のため、グループでの話し合いの様子から個々の対話的・協働的な取組を評価するのは、全てのグループを同時に見て判断できず、公平性に欠けるのではないかと考える。そのため、今回の検証授業の3事例とも、ワークシートでの評価とした。評価基準を設定し、発達段階や学習内容に応じて、各校種で設定し行ったが、ワークシート全体の評価の基準となってしまう、さらに細かい内容の評価基準を検討することが今後の課題である。



# 平成28年度 教育研究員名簿

## 小・中・高 合同 ・ 家 庭

学 校 名	職 名	氏 名
大田区立池雪小学校	教 諭	加 瀬 弥 生
調布市立調和小学校	主任教諭	小 野 亜由美
中野区立北中野中学校	主幹教諭	北 島 陽 子
葛飾区立葛美中学校	主任教諭	山 田 文 子
小金井市立緑中学校	主任教諭	河 野 朋 子
東京都立農芸高等学校	主任教諭	◎鈴木 昌 子
東京都立町田高等学校	主任教諭	田 村 優加子
東京都立永山高等学校	教 諭	西 澤 淑 恵

◎ 世話人

〔担当〕 東京都指導部高等学校教育指導課  
指導主事 宮 川 麻 衣 子

平成28年度

教育研究員研究報告書  
小・中・高 合同・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス